

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専門学校ミエ・ヘア・アーティストアカデミー
設置者名	学校法人 三重中央学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
衛生専門課程	理容科	夜・通信	238 単位時間	160 時間単位	
	美容科	夜・通信	201 単位時間	160 時間単位	
		夜・通信			
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学校窓口にて、書類名「実務経験のある教員等による授業科目」の閲覧を希望する旨お申出頂ければ随時可能

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	専門学校ミエ・ヘア・アーティストアカデミー
設置者名	学校法人 三重中央学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校窓口にて、書類名「学校法人三重中央学園 理事名簿」の閲覧を希望する旨お申出頂ければ随時可能

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社役員	2020.7.20 ～ 2024.7.19	財務
非常勤	弁護士	2020.7.20 ～ 2024.7.19	法務
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専門学校ミエ・ヘア・アーティストアカデミー
設置者名	学校法人 三重中央学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>学科の授業は法律で定められた時間数に則った授業計画を策定し国家試験合格を目指す。</p> <p>実習の授業は理容師・美容師国家試験に確実に合格できる内容・時間数を確保し、その上で卒業後現場に必要な技術を身に付けられるような内容を積極的に取り入れ、即戦力となる人材を育てる授業計画策定を目指している。</p> <p>授業計画は、授業を担当する教員がそれぞれ作成し、教務主任が確認後校長へ提出し決裁を得たうえで公表を行う。</p> <p>授業計画は前年度の3月までに作成し、新年度の4月に公表する。</p>	
授業計画書の公表方法	学校窓口にて、書類名「授業計画(シラバス)」の閲覧を希望する旨お申出頂ければ随時可能
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>① 前期末・後期末に学科・実技試験を行い、すべての教科科目において100点満点換算で60点以上を合格点とする。</p> <p>② 60点に満たない場合は追試験を行い合格点に達するまで再試験を行う。</p> <p>③ 欠席した時間数は同時間数の補講を行う。</p> <p>①～③を満たして履修を認定する。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>① 前期末・後期末にそれぞれ実施した試験の全科目の合計点の平均を算出する</p> <p>計算式：$\frac{\text{実技試験の点数} + \text{学科試験の点数}}{\text{教科科目数}} = \text{平均点}$</p> <p>② ①で算出した点数を各学年・各学科で点数順に並べ替え</p> <p>③ ②を6区分に分類<(1) 0～49点 (2) 50～59点 (3) 60～69点 (4) 70～79点 (5) 80～89点 (6) 90～100点>し成績の分布状況を把握</p> <p>④ ③をもとに下位1/4に該当する人数を算出、および下位1/4に該当する指標の数値が何点であるかを算出する</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	学校窓口にて、書類名「成績評価の指標の設定・成績の分布状況」の閲覧を希望する旨お申出頂ければ随時可能
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>下記要件を満たしている者に卒業認定を行う</p> <p>① すべての教科科目において合格点を取っていること</p> <p>② 欠課時間数に対する補講をすべて終えていること</p> <p>③ 授業料その他納入金を全額納めていること</p> <p>上記内容を考慮した卒業認定会議で最終的な卒業認定を行う</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	学校窓口にて、書類名「卒業認定に関する方針」の閲覧を希望する旨お申出頂ければ随時可能

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	専門学校ミエ・ヘア・アーティストアカデミー
設置者名	学校法人 三重中央学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学校窓口にて、書類名「学校法人三重中央学園 財務諸表等」の閲覧を希望する旨お申出頂ければ随時可能
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告（書）	

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
衛生		衛生専門課程	理容科	○	-		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,010 単位時間	630 単位時間		1,380 単位時間		
		2,010 単位時間					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30人		24人	0人	8人	2人	10人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>学科の授業は法律で定められた時間数に則った授業計画を策定し国家試験合格を目指す。実習の授業は理容師国家試験に確実に合格できる内容・時間数を確保し、その上で卒業後現場に必要な技術を身に付けられるような内容を積極的に取り入れ、即戦力となる人材を育てる授業計画策定を目指している。</p> <p>授業計画は、授業を担当する教員がそれぞれ作成し、教務主任が確認後校長へ提出し決裁を得たうえで公表を行う。授業計画は前年度の3月までに作成し、新年度の4月に公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>【学修成果の評価】</p> <p>① 前期末・後期末に学科・実技試験を行い、すべての教科科目において100点満点換算で60点以上を合格点とする。</p> <p>② 60点に満たない場合は追試験を行い合格点に達するまで再試験を行う</p> <p>③ 欠席した時間数は同時間数の補講を行う。</p> <p>①～③を満たして履修を認定する。</p> <p>【成績評価】</p> <p>① 前期末・後期末にそれぞれ実施した試験の全科目の合計点の平均を算出する</p> <p>計算式：$\frac{\text{実技試験の点数} + \text{学科試験の点数}}{\text{教科科目数}} = \text{平均点}$</p> <p>② ①で算出した点数を各学年・各学科で点数順に並べ替え</p> <p>③ ②を6区分に分類く (1) 0～49点 (2) 50～59点 (3) 60～69点 (4) 70～79点</p>

(5) 80～89点 (6) 90～100点 >し成績の分布状況を把握 ④ ③をもとに下位 1/4 に該当する人数を算出、および下位 1/4 に該当する指標の数値が何点であるかを算出する
卒業・進級の認定基準
(概要) 下記要件を満たしている者に卒業認定を行う ① すべての教科科目において合格点を取っていること ② 欠課時間数に対する補講をすべて終えていること ③ 授業料その他納入金を全額納めていること 欠席した時間数に対して同時間の補講を行わなければならない。2 年次進級時に補講が残っている場合は原則進級することはできない。
学修支援等
(概要) ・早朝・放課後に自由に練習ができるよう施設を開放 ・いつでも気軽に教員に技術指導、質問ができる環境体制 ・入学前から理容技術のレクチャーを行い入学後良いスタートを切れる体制作り

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
14 人 (100%)	0 人 (0%)	14 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) 理容室・理容業界			
(就職指導内容) 校内での就職ガイダンス、就職担当者による生徒への個別アドバイス、就職担当者と企業との密接な連携			
(主な学修成果（資格・検定等）) 理容師国家試験受験資格取得 他にメイク検定、色彩検定、ネイル検定、着付など取得可能			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
27 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 個別相談、面談、担任・本人・保護者による三者面談など		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
衛生		衛生専門課程	美容科	○	-	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
2年	昼	2,010 単位時間	630 単位時間		1,380 単位時間	
			2,010 単位時間			
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
150人		131人	0人	11人	4人	15人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）					
<p>（概要）</p> <p>学科の授業は法律で定められた時間数に則った授業計画を策定し国家試験合格を目指す。実習の授業は美容師国家試験に確実に合格できる内容・時間数を確保し、その上で卒業後現場に必要な技術を身に付けられるような内容を積極的に取り入れ、即戦力となる人材を育てる授業計画策定を目指している。</p> <p>授業計画は、授業を担当する教員がそれぞれ作成し、教務主任が確認後校長へ提出し決裁を得たうえで公表を行う。授業計画は前年度の3月までに作成し、新年度の4月に公表する。</p>					
成績評価の基準・方法					
<p>（概要）</p> <p>【学修成果の評価】</p> <p>① 前期末・後期末に学科・実技試験を行い、すべての教科科目において100点満点換算で60点以上を合格点とする。</p> <p>② 60点に満たない場合は追試験を行い合格点に達するまで再試験を行う。</p> <p>③ 欠席した時間数は同時間数の補講を行う。</p> <p>①～③を満たして履修を認定する。</p> <p>【成績評価】</p> <p>① 前期末・後期末にそれぞれ実施した試験の全科目の合計点の平均を算出する</p> <p>計算式：$\frac{\text{実技試験の点数} + \text{学科試験の点数}}{\text{教科科目数}} = \text{平均点}$</p> <p>② ①で算出した点数を各学年・各学科で点数順に並べ替え</p> <p>③ ②を6区分に分類<(1) 0～49点 (2) 50～59点 (3) 60～69点 (4) 70～79点 (5) 80～89点 (6) 90～100点>し成績の分布状況を把握</p> <p>④ ③をもとに下位1/4に該当する人数を算出、および下位1/4に該当する指標の数値が何点であるかを算出する</p>					
卒業・進級の認定基準					
<p>（概要）</p> <p>下記要件を満たしている者に卒業認定を行う</p> <p>① すべての教科科目において合格点を取っていること</p> <p>② 欠課時間数に対する補講をすべて終えていること</p> <p>③ 授業料その他納入金を全額納めていること</p> <p>欠席した時間数に対して同時間の補講を行わなければならない。2年次進級時に補講が残っている場合は原則進級することはできない</p>					
学修支援等					
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早朝・放課後に自由に練習ができるよう施設を開放 ・いつでも気軽に教員に技術指導、質問ができる環境体制 ・入学前から理容技術のレクチャーを行い入学後良いスタートを切れる体制作り 					

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
62人 （100%）	0人 （0%）	62人 （100%）	0人 （0%）
（主な就職、業界等） 美容室・美容業界			
（就職指導内容） 校内での就職ガイダンス、就職担当者による生徒への個別アドバイス、 就職担当者と企業との密接な連携			
（主な学修成果（資格・検定等）） 美容師国家試験受験資格取得 他にメイク検定、色彩検定、ネイル検定、着付など取得可能			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
138人	4人	2.9%
（中途退学の主な理由） 学校生活への不適合、病気療養、進路変更、経済的問題等		
（中退防止・中退者支援のための取組） 個別相談、面談、担任・本人・保護者による三者面談など		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 （年間）	その他	備考（任意記載事項）
理容科	150,000円	330,000円	906,000円	
美容科	150,000円	370,000円	906,000円	
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 学校窓口にて、書類名「学校自己評価」の閲覧を希望する旨お申出頂ければ随時可能		
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制) 学内で行った自己評価結果に基づき「学校運営」「教育活動」「学生支援」などの評価項目について意見・提案・改善策等を評価委員に求める。評価結果を踏まえた改善方策は次年度内に校長を中心に行っていく。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
業界団体	2020. 4. 1～2023. 3. 31	理容師
業界団体	2020. 4. 1～2023. 3. 31	理・美容師
企業等	2020. 4. 1～2023. 3. 31	理美容ディーラー
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 学校窓口にて、書類名「学校関係者評価結果」の閲覧を希望する旨お申出頂ければ随時可能		
第三者による学校評価(任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://hair-artist-academy.com/
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	H124320285048
学校名	専門学校ミエ・ヘア・アーティストアカデミー
設置者名	学校法人 三重中央学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		20人	18人	20人
内 訳	第Ⅰ区分	14人	14人	
	第Ⅱ区分	3人	3人	
	第Ⅲ区分	3人	1人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				20人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑つて認定の効力を失つた者の数

右以外の大学等		短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
年間		前半期	0人 後半期 0人

(3) 退学又は停学(期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。)の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	0人	0人	—
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	0人	0人	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。